



Japan Sporting Equipments Retailers Association

No. 75

編集/発行:日本スポーツ用品協同組合連合会  
〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-8-6  
東京スポーツ会館 301号室  
☎ 03-5829-6490 FAX 03-5829-6491  
ホームページ <http://www.jsera.jp/>  
E-mail [jsera@jsera.jp](mailto:jsera@jsera.jp)

(2015/8~2016/7のスローガン)

拡げよう絆 深めよう組織力!



## スポーツ庁に一提案!

JSERA・日本スポーツ用品協同組合連合会

理事長 重森 仁

皆様、如何お過ごしでしょうか。学納品の対応はじめ、いろいろと忙しい時期になって来ました。内容はともかく時間に追いかけてられているうちは「仕事をしている!」と実感できましょう。

さて、「用器具管理アドバイザー制度」の件ですが、高知、岡山、岡崎と3か所で試行をおこない着実に固まりつつあります。受講生の方々の熱心さに何としても軌道に乗せたいとの思いは、美馬委員長と共有しています。制度の定着には先の展望が大切です。そのためにはスポーツ庁への働きかけが欠かせません。

さて、講習の中で、「標準耐用年数」と「使用年数」ということが議論になりました。スポーツ器具は使用頻度に差があり、明確に一般論として述べることができませんが、目安として考慮する必要はあるでしょう。

バレーボール支柱の「標準耐用年数」は安全の手引き(施設用器具部会)によれば、2~3年(何も手入れしなければこの程度で使用できなくなる恐れがある)と記されています。実際は、保守点検、交換修理(巻取器、滑車など)を行えば3倍程度は使用できるとの考えもあり

ます。それによれば9年が使用期間と考えられます。あくまで目安で、使用状況、保守点検状況等によってかなり異なるようですが。例えば、ある中学校が30万円でバレーボール支柱を1対購入し、保守として巻取器、滑車等の交換をして9年使用した場合30万+保守費用6万円を9で除して4万となります。

つまり、大雑把に言って1年当たり4万円の経費がいることとなります。

中学校には文部科学省に於いて揃えるべき備品とその数量が指針として示されています。先のバレーボール支柱のように、基本的に「使用年数」を「標準耐用年数」の3倍とし、その間に必要とされる保守費用を加えて、計算し、1年当たりの費用を算出すると、標準規模の中学校では、体育備品に年間100万円ほどの費用を要することとなります。実際は、昨年の「活路開拓事業に係るアンケート調査」によれば、その半分ほどしか予算はないようです。不足分を後援会組織等で集めた資金で補えれば問題ないでしょうが、使用期間を長くして対応していれば、その代償として危険が忍び寄ってきます。

アンケートの回答にも使用期間を伸ばして対応する傾向が表れています。今回の講習でバレーボール支柱が25年以上も使用されている（問題個所あり）例もありました。適正に管理され、買い替えいただける環境が大切と考えます。そのためには、適切な予算処置も必要です。

ここで、国のスポーツ関係の予算を見てみましょう。平成28年度のスポーツ関係予算は320億余で、前年比で11%以上も増えています。他省庁予算が減額傾向にある中では嬉しいことですが、まだまだ十分ではないでしょう。さて、28年度予算の中身ですが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会等に向けた競技力の向上に143億、スポーツ庁設置によるスポーツ施策の総合的な推進に181億です。後者の中には、武道等の円滑な実施の支援として47億が計上されています。中学校での武道授業の場と安全確保に使われると聞きます。この処置が終了すれば、今度は安心・安全の場、とりわけ用器具の管理、保守点検、備品の買い替えを促進促すための予算に振り向けていただきたいものです。

例えば、中学校を例にとって見ましょう。とりあえず現有備品の保守点検、修理、備品台帳の整備を行うことにしましょう。全国で、約1万校あります。1校当たり50万円の費用を見込んで計算すると50億円になります。今回の武道等の円滑な実施の支援の金額とほぼ同じですから1年で中学校は管理のスタートが切れます。もう1年計上していただければ小学校、高校もできてしまいます（もちろん、その後継続的に安全・安心の場を保つには更なるスポーツ予算の増額が必要であることは言うまでもありません）。

そして、JSERA 会員がメーカー・卸さんと組んでそれに対応するというシナリオは夢物語でしょうか。

夢物語に終わらせないためには何が必要でしょうか。

それには、学校と組んで備品台帳を整備し、

点検、保守、買い替えのためのデータベースを整備することです。備品台帳、保守点検・修理簿の整備と買い替え計画の策定を急ぐ必要があります。今後進めていきます「管理アドバイザー制度」は上記のような計画を見通したものです。美馬委員長を筆頭に可能な限り多くの組合員を結集して取り組みたいものです。

JSERA としては制度の充実度合を見ながら、スポーツ庁、文科省、経産省等に働きかけたいと思います。もちろんメーカー・卸さんの団体とも連携し、安心・安全の考え方を肝に据えつつ制度の充実に取り組みます。

つい最近、私の近くで市立中学校の畳の入札がありました。よくあるメーカーの物で小売希望価格が3万円を49枚、うち別注色が8枚ありましたから小売希望価格の総額は147万以上になります。さらに現有の49枚を処分することも含まれます。入札に臨みました。1回目の応札では購入予定価格を上回り、2回目以降に移りました。1回目に最低価格を提示した店に落札しませんでした。88万を割った価格でも落ちませんでした。市はとんでもない価格設定をしていました。畳の処分費など全く算入されていないようです。環境問題が重視される今日、市の教育委員会の対応に憤りを感じました。安心・安全の視点も取り込んでくれるか心配です。価格のみの入札に終われば、あのバス事故のような誤りを招くかもしれません。各都道府県組合においては、日常の管理、保守点検を学校と組んで行い、教育委員会も巻き込んで「安心・安全の視点」を取り入れていく運動が、JSERA においては、関係省庁に「安心・安全の視点」を取り入れた実効ある取り組み、関連予算の増額を求めていく努力が大切かと思えます。

もちろんJSERA には、「会員増強」など「管理アドバイザー制度」以外にも取り組むべき課題はたくさんあります。すべてに全力投球する春です。

## 平成28年度 第23回全国理事長会議報告

日 時：平成28年2月1日（月） 13：30～17：15

場 所：ニューオーサカホテル 3階 「淀の間」

出席者数：理事長本人出席	45名
理事長代理出席	2名
顧問	3名
来賓	1名
オブザーバー出席	4名
理事・監事出席	7名
合 計	62名 出席

進 行：土赤専務理事

### <開会の辞>

角前副理事長

### <顧問挨拶>

橋本聖子参議院議員

・TOCOG理事としてJSERA顧問としてJSERAの皆様へ、協力をさせていただきます。



### <理事長挨拶>

重森理事長

・安全基準を担保する最低以下の金額で受注運行をしていたスキーバスの事故を例に挙げ、我々の業界も同じようなもの。入札によりほとんど利益のない状態で受注してきた バレーボール支柱や卓球台等々の事故がたくさん起こっている。あまりにも危険性のある ひどい入札ははずしていくという方向を目指していきたいと思う。

今日は、会員増強をテーマにみなさんで知恵を出し合ひましょう。

### <委員会活動方針>

#### 1. 活性化委員会

美馬委員長

- ・スポーツ用器具管理アドバイザー講習会第1回（試行）を高知県にて実施。今後は、2月に岡山県・愛知県、6月に宮城県にて開催が決まっている。最終的に全ブロックで実施する。
- ・2020東京オリンピックパラリンピックに向け、

組合員用にオリンピックマークを付けたポロシャツ等の作成を目指し、アシックスにお願いをする。

- ・ボールを贈ろう事業は今年度も卸組合に協力いただいている。各組合においては今後も引き続き実施していただきたい。

#### 1. 共生委員会

武宮委員長

- ・メーカーの社内革命が不透明な部分があるので、今年は卸の方々と懇談会を実施する。

大阪・・・第18回 3月9日（水）

東京・・・第9回 4月20日（水）

#### 1. 広報委員会

松村委員長

- ・リポートを年3回発行、スポーツ産業新報に月1回情報を流し掲載してもらっている。
- ・今後はオリンピックに向けて色々な情報をいち早く届けるために、メールを活用し情報発信をしたい。2月末までに各県ごとに組合員全員分のメールアドレスの収集をお願いしたい。詳細については、後日案内します。

#### 1. 事業委員会

角前委員長

- ・新たな商材として「スーパートリノ」を展開。後程、商品説明会を行う。

#### 1. 会計

前田委員長

- ・17期上半期の決算概要報告。

#### 1. 総務委員会

土赤専務理事

- ・本日の全国理事長会議の運営、和歌山県での全国大会を中心に活動。

### <新理事長紹介>

- ・八森 辰雄 理事長（岩手県）
- ・早川 純一 理事長（宮城県）
- ・渡辺 恭一 理事長（福島県）
- ・佐藤昌一郎 理事長（東京都）
- ・大原荘一郎 理事長（新潟県）
- ・木戸 博和 理事長（兵庫県）

### <各ブロック報告>

#### 1. 北海道・東北ブロック

松村会長

- ・昨年、全中大会を開催。
- ・今年、国体を岩手県にて開催。

- ・再来年、JSERA 全国大会を福島県にて開催。
1. 関東・甲信越ブロック 村山神奈川県理事長
- ・昨年、国体（クレー射撃・神奈川県）開催。
  - ・来年、JSERA 全国大会を東京都にて開催。
  - ・毎年、3・6月（役員会）・9月（総会）・1月（新年会）を実施。

1. 中部ブロック 澤田会長 14:50 ~ 16:30
- ・2月23・24日、スポーツ用器具管理アドバイザー講習会（愛知県）開催。
  - ・6月8・9日、総会（鳥羽）開催。
  - ・8月、全中大会を開催。

1. 近畿ブロック 瀧本和歌山県理事長
- ・昨年、高校総体及び国体（和歌山）を開催。
  - ・今年、JSERA 全国大会を和歌山県にて開催。

1. 中国ブロック 渡邊会長
- ・11月18日、ブロック大会（鳥取県）を開催。
  - ・2月16・17日、スポーツ用器具管理アドバイザー講習会（岡山県）開催。
  - ・3月、第14回 JSERA 杯（岡山県）開催。

1. 四国ブロック 美馬会長
- ・12月1・2日、スポーツ用器具管理アドバイザー講習会（高知県）開催。38名が受講。
  - ・愛媛県が法人化。
  - ・8月30日、ブロック大会（徳島県）を開催。（愛媛県法人化をお祝い予定）

1. 九州ブロック 福島熊本県理事長
- ・10月22・23日に JSERA 全国大会（長崎県）開催。
  - ・JSERA 九州ブロックママさんソフトバレーボールフェスティバル（佐賀県）を32チームで開催。
  - ・毎年、理事会を年6回実施。
  - ・長崎県 森理事長より、今年の JSERA 全国大会のお礼。

- <スポーツ用器具管理アドバイザー講習会の件>  
活性化委員会 美馬委員長
- ・JSERA が認定するものであるが、経済産業省認可を受けている。
  - ・組合員全員に試行の段階より受講可である。
  - ・先ず自分たちの出来る事から進めていく事が必要。

- <三大大会の件> 重森理事長
- ・JSEC・NES との条件内容について早目の取りまとめ出来る様話合い。
  - ・各競技実行委員会との折衝を早目に実施する事が大切。

- ・施設使用料・施設手数料についての話し合い。
- ・メーカー出店について予定の無い場合のお願い。

## ……… 研 修 会 ………

### テーマ『会員増強に向けて』

- 講師：鮎川 尚之氏（全国中小企業団体中央会）
- ・“数”の変化を中心とした組合を取り巻く環境変化
  - ・今後の一つの方向性としての組合間連携について
  - ・保持事業の一例
  - ・他組合の事例紹介

#### （質疑応答）

- ・県単位での中央会から補助金は出ないのか？  
（答）制度によって異なるが現在は難しい。
- ・他業種の組合の状況は？  
（答）減少にはあるが、共同経済事業の比率が大きいのが現在である。
- ・組合員増に向けて何をすべきか？  
（答）組合間の連携を考えても良いと思う。

#### （会員増強に向けての実行例）

- ・50年前から婦人部研修旅行（1泊2日）を実施（山形県）
- ・10数年前から販促事業として各店に1万円相当のタオルの送付や1泊2日での全組合員対象意見交換会を実施（愛媛県）
- ・組合組織維持の為、共同販売活動としてDバッグの販売を実施（佐賀県）

まとめ 辻本昌孝 顧問

#### <商品説明の件>

「スーパートリノ」

(株)シースカイ 代表取締役 岡 二郎

#### <閉会の辞> (17:15)

武宮副理事長



## 第17期 第2回理事会報告

日時：平成27年10月22日（木） 9：30～10：30  
場所：タワーシティ第一会議室

### <審議事項>

#### 1. 総会前の最終打合わせ

- ・総会での役割分担の最終確認。

（全員一致で承認）

#### 2. その他

- ・10月14日 ソフトテニス連盟へ、大会使用球

の扱い方法について、連盟より笠井専務理事・柳下事務局長、JSERAからは重森理事長・土赤専務理事の計4名で、互いの現状についての意見交換を行いました。

## 第17期 第3回理事会報告

日時：平成27年11月26日（木） 11：00～16：00  
場所：東京スポーツ会館4階 会議室

### <報告事項>

#### 1. 理事長報告

- ・〔11月12日〕近畿ブロック総会 出席
- ・〔11月18日〕中国ブロック総会 出席

#### 2. 委員会報告

##### <活性化委員会>

美馬委員長

- ・2020年オリンピックに向け、オリンピックロゴを使用したJSERA会員向けのスタッフジャンパーやポロシャツの作製をアシックスに交渉中。

##### <協議事項>

#### 1. 長崎県大会（総会）の反省点

- ・講演会の話は素晴らしいものがあったが、分科会も必要なのではないか。分科会で発言できるのは一生の宝物だと言っている人もいる。
- ・予めテーマを決め、意見を言える場をつくるのも必要ではないか。
- ・総会の時間配分を検討してはどうか。質疑応答時間を30分位としてはどうか。
- ・各県で練った意見を事前にももらえると良い。
- ・参加費の基準は設けるが、開催県で協議し決める。
- ・レディスフォーラムの反省点としては、時間の取り方として1時間は欲しい。早目の対策が必要であり、女性をどう集めるかが今後の課題。

また、女性が参加することに各県組合の理解を得るのが難しい。今回の成果は、ネットワークが出来た事。今後の目的として仲間を増やす事とする。将来的に各県に女性部長を作れると良い。

#### 2. 「スポーツ用器具管理アドバイザー」講習会開催の件

- ・12月1・2日高知県にて開催。
- ・危険事例等のプロモーションビデオがあれば行政に働きかけやすい。

#### 3. 全国理事長会議（内容）の件

- ・研修会のテーマは「会員増強に向けて」とする。
- ・JSERA理事としての案を考える必要あり。また、勧誘方法のマニュアル作りが必要ではないか。
- ・JSERA理事と各県へのアンケート調査を基に、研修会で講師を招き取り組む。

#### 4. シースカイ商品の件

- ・ゼット株が希望するシースカイ商品扱いについて説明を受けた。

詳細：11月9日株シースカイ2名とゼット株2名、そしてJSERA角前副理事長含め5名で話し合いの席を設けた。結論迄には到らず、情報交換の席となった。パッケージ変更の要望があった。

- ・商品紹介を全国理事長会議にてシースキアの岡氏に説明をしてもらう。また、各ブロック大会にて説明をしてもらう。
- ・販売手数料は各都道府県組合と JSERA の両方とも入る。
- ・商品の取引は、直接お店と(株)シースカイで行う。

## 5. 三大大会について

- ・11月25日の役員会時に JSEC 1名と NES 3名と懇談会を実施。  
以下、懇談会内容報告。
- ・テント代の金額や支払い方法について、また、警備代についての要望をした。
- ・協賛金については、開催県が開催種目の昨年実績を考慮して開催県で検討してもらう。
- ・各協会と密にすることが必要である。また、種目別に担当を決め、大会準備のスケジュールを作成することが望ましい。
- ・大会前に事前申し込みの出来る様、検討出来な

いか要望した。

- ・2月2日の JSEC・NES 連絡会議の時間を減らし、三大大会情報伝達会議を充実させる。
- ・三大大会情報伝達会議には JSERA 理事は全員参加とし、担当については後日連絡する。

## 6. メール配信の件

- ・レポートの発行を3月・7月・11月とする。
- ・全組合員のメールアドレスを把握し、将来的にレポートや伝達事項等メール配信できるようになればいい。まずは、メールの活用状況やアドレスの調査をし、今後検討していく。

## 7. その他

- ・ボールを贈ろう事業については、実施していない県については促しをする。
- ・次期役員改選に向け、早い段階から若手と女性の発掘をしていく。
- ・JSERA 組合店向けのクレジットカード契約とガソリンカード契約についての提案と JSR 当時に行った実績の確認。

# ブロック大会報告



## 近畿ブロック 大会報告

近畿ブロック協議会  
事務局長 松田修一

2015年11月12日(木)13時よりホテルグランヴィア大阪にて『業界に喝!!活!!勝!!』と言うスローガンのもと、大阪が主管となり開催されました。

定時総会は満場一致にて議題が承認された後に3層研修会が開催され 来賓7名 賛助会員メーカー7名 賛助会員(卸・商社)8名 組合員49名 合計71名が参加 講師の重森仁日本スポーツ用品協同組合連合会理事長がスポーツ用器具管理アドバイザー制度について説明があり その後、美馬義一日本スポーツ用品協同組合連合会副理事長が高知県で実行された成功事例等報告がありました。このアドバイザー制度を生かすのは組合

員が行政を巻き込んで地域と密着し、信頼を重ね、取り組みを強化する事が大切であると感じました。その為にも各府県の組合員が早急にスポーツ用器具管理アドバイザー制度の研修に参加して資格を習得する必要があります。行政を動かすには、組合員が1枚岩になる事が大切だと学びました。

その後、三層懇親会はメーカー・問屋との交流を深めると共に再度アドバイザー制度の仕組みや今後の日程を確認する組合員も多く、高知県にて12月1～2日に開催された研修には多くのメンバーが参加したと聞いております。



## 中国ブロック大会の報告



中国ブロック協議会

会長 渡邊 健介

第17回（平成27年度）JSERA日本スポーツ用品協同組合連合会 中国ブロック大会を鳥取県運動用具商協同組合の主管でホテルニューオータニ鳥取において11月18日（水）開催しました。

平成26年度の事業報告及び決算報告並びに監査報告も賛成多数で承認され平成27年度の事業計画（案）及び予算（案）も賛成多数で承認されました。

そのあと、日本スポーツイベントサービス推進協議会の齊藤 隆 専務理事より全国高等学校総合体育大会の概要説明会があり総会審議は無事終了しました。

その後、三層協議会に移り、JSERA 重森 仁 理事長より2月16日17日に岡山においてSGマーク商品を中心としたスポーツ用器具管理アドバイザー講習会、近畿総体での指定管理者制度での会場使用料の減免が、組合事業として十年以上続いている体育の日「ボールを贈ろう」という活動によって出来たことなど日頃の活動を話していただきました。

大阪スポーツ用品卸商業組合の出野副理事長（ヒロウン社長）から2月2日3日の第116回大阪卸見本市のPRをしていただきました。

スポーツメーカー代表として アシックスジャパンの石谷公伸 アスレチックス中四国販売部長から、スポーツ業界の現状と2020東京オリンピックに向けてメーカー・卸・小売りの三層が協力して業界を盛り上げたいと明るい話をしていただきました。

基調講演として、全国児童養護施設協議会（社会福祉法人 鳥取こども学園園長）会長 藤野興

一氏から『日本の子どもたちは今』という演題と  
.....運動用具商協同組合の皆様と

改めて子どもの人権について考える.....  
というサブテーマで約二時間ちかくお話を聞かしていただいたのですが、中でも川崎市で起きた中学一年生殺傷事件についてのお話は、残忍な事件でしたが、なみだが出る場所もあり、素晴らしく参加者の心に残るお話しでした。

児童養護施設に今後とも組合事業として「ボールを贈ろう」のキャンペーンを続けなければと改めて思いました。

そして、三層意見交換会として、各県の理事長に現況報告、卸現況報告をイモト 畠 良弘 大阪店店長から報告をしていただきました。参加されなかった組合員の皆様には、ぜひともブロック大会、全国大会に参加され、日常の営業活動や地域活動に役に立つことを知ってもらいたいと思いました。参加された皆様本当にありがとうございました。



## 「スポーツ用器具管理アドバイザー講習会」開講



活性化委員長 美馬 義一

この講習会は経済産業省の指導、協力を得て、JASPOとJSERAの協力のもと、学校施設等が安心、安全にスポーツができる環境へと導いていくものです。

自分たちが、この資格を取得して、学校や施設、地域におけるスポーツ用備品、器具の管理台帳、点検の手法、点検表の記入の仕方等、維持管理に関する指導的役割を果たせるようにするものです。それとともに、スポーツ用器具の正しい扱い方や保守点検の必要性 及び、よりスポーツがしやすい環境、そして買い替え計画もアドバイスできるように、取り組んでいきます。

講習会は11分類に分け、2日間で14時間受講していただきます。

正しい取り扱い方法から始まり、保守点検の内容（日常点検、定期点検、備品台帳）、点検実技、SG制度の狙い、標準耐用年数（標準使用期間）、器具の維持管理、万一の事故への対応、買い替え計画等を学ぶ講習です。

既に

第1回高知会場（H27年12月1～2日

高知県民体育館 38名参加）

第2回岡山会場（H28年2月16～17日

岡山総合グラウンド 23名参加）

高知会場 点検実技



第3回愛知岡崎会場（H28年2月23～24日  
岡崎中央総合公園 26名参加）

で実施されました。

各会場で活発な意見交換、質問が出され、それらを精査し、講習内容も改善されています。講習会で学んだ事項をどこに、どう伝えていくかが制度の普及につながります。

各都道府県組合店は地域の学校、行政、スポーツ施設に働きかけて下さい。

活性化委員会も経済産業省、文部科学省、スポーツ庁に働きかけていきます。

講師は、日本体育施設協会、施設用器具部会より2～3名が派遣されます。

第4回は東北ブロックにて（6月28～29日  
宮城総合運動公園）開講予定です。

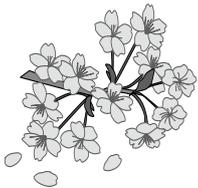
その後、関西、関東、九州ブロック、静岡県等予定しています。

受講された方は確実にスキルアップされていますので、是非ご参加下さい。

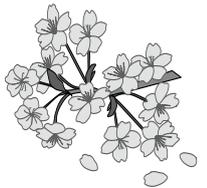
愛知県会場 講習会



## 女子会の扉



# 女子会の扉



長崎県スポーツ用品協同組合  
平川友美  
和光スポーツ

生まれた時から「スポーツ店の娘」だった私ですが、運動神経はパツとせず、人並みにできそうなのは水泳、スキー（こちらは長崎という地での人並みで雪国の方での人並みには程遠いです）くらいです。

しかし、体格だけはスポーツマンらしく大きく育ててもらったおかげで、お客様には何となくスポーツ店の人らしく感じていただいているようです。私が生まれる前から弊社のお客様という方もたくさんいらっしゃるの、本当は事実(?)をご存知なのかもしれません。

女なのでスポーツ店を継ぐことはなかりょうと思、スポーツに真剣に取り組んだこともありませんでしたが、店に携わりスポーツマンのお客様と

接するようになってスポーツの素晴らしさを感じている今日この頃です。

部活に真摯に取り組んでいる選手や指導者の方には毎日の努力の大切さを、またご年配のお客様には高齢者社会でいつまでも健康でいられる秘訣を…と学ぶことがたくさんあります。

せっかくスポーツ店に生まれてきたのに、結局仕事として携わるまで無関心だったのを反省し、学んだことを多くの人に広めていければと、現在はノルディックウォーキングの指導を行っています。足腰が鍛えられた、良い姿勢になったとの声をお聞きするので、今後もっといろいろな事を学び、少しずつでもスポーツの素晴らしさをお伝えしたいと考えています。

## JSERA 推奨商品「スーパートリノ」のご案内

この度、JSERA の新しい商品として、「スーパートリノシリーズ」の取り扱いを開始致します。  
 この商品は超微細振動技術を用いて商品開発され、多くのトップアスリート達を応援しています。  
 この機会に新しい商品でお客様とのコミュニケーション作りにも役立てていただければ幸いです。  
 商品の取扱いを希望する組合員は、各県事務局もしくは製造元(株)シースカイまでお問い合わせ下さい。

### ●開発・製造

株式会社 シースカイ 兵庫県神戸市長田区林山町 7-12  
 TEL 078-647-8541 FAX 078-647-8542

### ●取扱商品

スーパートリノ関連商品 (ブレスレット、アンクレット、ネックタイプ、ウェストタイプパワーバランスシール、ミニインソール他)

※ 下の広告は、株式会社シースカイが作成したものです。



### “超微細振動”スーパートリノ

**(1)フィジカル・パフォーマンスの向上**  
 細胞が活性化することで、筋力や関節の可動域といったフィジカルなパフォーマンスを本来持っている潜在的なレベルに近づける効果が期待できます。  
 身体が「よく動き」、「強く・速く動く」ようになります。

**(2)健康増進・回復効果**  
 細胞が活性化することで、身体の生理活動や免疫機能などが活性、自身の「不具合を回復させ」、「健康な体を維持する」ように働きます。

**(3)気力の充実**  
 細胞が活性化することで、身体の各パーツは潜在的に持っている調和のとれた活動をしようとする。この生体活動が理想的に行われると、体は「元気を取り戻し」、「気力が充実」してきます。





シースカイでは、超微細振動“スーパートリノ”技術を用いて多くの商品開発・製造を行ってまいりました。  
 2008年に行われました北京オリンピックでは、一部種目の代表選手のサポートに役立たせ、その功績により同年11月3日「東久邇宮文化褒賞」を授与されました。超微細振動“スーパートリノ”は、身体の振動を元に戻し、身体の潜在能力をきき出すものと考えられております。

人には「自律神経のバランスを整える」ことで身体に良い影響があります。  
 自律神経のバランスを整えることによって、自己治癒力を向上させ、健康な生活を取り戻すことによって、快適な運動をできるようにすることを願い商品のご挨拶とさせていただきます。

※ シースカイでは、販売商品にアンケートはがきを付けてお客様の意見をお聞きし商品開発に活かしています。(下記は抜粋)

1. ゴルフのレッスンプロの話  
スーパートリノブレスレットを両手首にして、ネックレスをすることで、体の軸が定まった感覚を覚え、教え子に誇り、感謝されています。
2. ゴルフ業に  
ゴルフコンペの商品でいただいた、スーパートリノブレスレットをしてプレイをしたら、今までとは全く異なるベストスコアが実現。何よりもショットの飛距離がぐんと伸びて、スライスすることが少なくなった。また、アプローチショットやパターの精度は凄かった！
3. うつ病と診断された男性の話  
ここ1年以上、不眠症で、翌朝になると寝起き、体がだるい症状が続き、病院で診断すると、仕事のストレスでうつ病と診断された。ダメもとでスーパートリノネックレスをはじめてから睡眠がとれるようになり今は精神的にもかなり改善されてきたと思います。
4. 慢性の肩こりがなくなったOLの話  
慢性の肩こりで、パソコンを使用するオフィスワークが辛かった生活から、スーパートリノブレスレットをすることで、慢性の肩こりから解放されました。なんとなん、今まで以上に仕事に集中できているような感覚もあり、また、夏のクーラーによる冷え性からも開放されたような気がします。
5. 腰痛が癒えたように感じた男性の話  
約10年以上も腰痛で苦しんでいました。様々な医療対策を講じましたが、結局効果なく、手術を覚悟したとき、友人から勧められ使用するスーパートリノを装着数日で痛みが和らぎ、今ではあきらめていたゴルフも出来るようになりました。
6. 日本舞踊の師範と生徒さんの話  
両足首にスーパートリノアンクレットをすることで、かなり年齢の方でも舞(日本舞踊)がスムーズにできるようになりました。今では日常の生活でも手放せなくなりました。ウォーキングも楽しくなり、今まで以上に行動範囲も広がり楽しい毎日を過ごしています。

- 2008年“北京五輪” 2012年“ロンドン五輪” 一部代表選手のアシスト(水泳・柔道・レスリング・バドミントン他:メダル獲得)
- 2010年“バンクーバー五輪” 2014年“ソチ五輪” (ノルディック複合他:メダル獲得)
- ゴルフ(シニアオープン2007年:優勝)他
- チアリーディング(世界選手権優勝 全国大会優勝)
- 高校野球(全国大会優勝)、サッカー、ラグビー 他
- ボクシング・格闘技(空手)



超微細振動“スーパートリノ”開発・製造 : 株式会社シースカイ

## 第5回 ふれあい健康ウォーキング大会を開催して



愛知県スポーツ用品商業協同組合

柳澤昌樹

(株)アルプス

私たち愛知県スポーツ用品商業協同組合は、毎年1回『歩くスポーツの祭典』を行い、地域社会に役立つスポーツ活動をしています。



去る2月14日の日曜日に「第5回ふれあい健康ウォーキング大会」を、蒲郡市ラグーナテンプスをスタートして美しい三河湾の地を眺め楽しみながら健康づくりをしました。

当日は、組合会員の募集により98名の方が2時間9キロのウォーキング又は今話題のノルディックウォーキングを楽しみました。

参加者には、参加記念品・コース図・ゼッケン・完歩証をお配りして、ゴール後はラグーナ利用券配布と景品抽選会に参加して頂きました。



今回は朝方からの雨を心配しながら、組合員スタッフのご協力の元で、なんとか大会運営をする事ができ、参加者の誰一人の怪我人もなく、参加者全員が完歩できました事を嬉しく思います。

「雨にも降られたけど、楽しかったよ!」と参加者の声を頂きました。



この社会貢献活動や日頃の営業活動で思うのは、お客様は商品やサービスの価値を受け取るためだけでなく、本当のニーズは、お客様の得たい感情だと思っています。

ウォーキングを通して楽しい気持ち、達成感、満足感、優越感などを持ち帰って頂いたのではないだろうか。

最後に、組合員スタッフ反省会では大成功で終了致しました事をご報告いただきました。

これも組合員の皆様・後援頂きました各団体様・協賛頂きました各メーカー様の御協力の賜物でございます。

この紙面をお借りしまして心より感謝申し上げます。

## 震災から5年



(有) スポーツショップマツムラ

松村善行

宮城県石巻市

平成28年3月10日、明日で5年目を迎えます。あの震災が脳裏に浮かび、今、生を受けていることが奇跡に感じます。あの地獄を生きながらえてきたことはJSERAの方々や全国のみなさまのご支援のおかげでした。あのご支援があったからこそがんばれました。感謝申し上げます。

皆様の励ましで地域と子どもたちの元気を取り戻すように微力ながら活動いたしておりますが、今でも残念ながら他力本願に支援を期待している住民が見受けられます。

被災地だけの現象でなく先の全国理事長会議の中でも用具管理アドバイザー制度について前向きな意見よりも認定、公認のお墨付きの意見が多くあったように思われます。被災地の復興も行政の支援も必要ですが住民が一步でも前に進み推進することが復興に弾みを付けることと思われます。

用具管理アドバイザー制度も行政の認定を受けるから行うのではなく我々が行動を起こし学校・地域・行政が認めざる得ないような状況を創っていく気構えを組合員一人一人が持つ事こそがこの大きな武器を完成させるキーワードになるのではないのでしょうか！



## 「東日本大震災から5年」

日本の故郷に、ある日突然激震が走った。誰しもが、絆の大切さを感じた5年でした。私たちが輝く日本に向かっていく事を信じ、思いやりの心を大切にしていきます。

理事長 重森 仁

## ● 編集後記 ●

今年は例年になく雪が少ない。雪というと皆雪かきが大変というが自分にとっては冬場のトレーニングの1つとしている。

どうしても寒くなると体を動かしたくないがなぜか食欲だけは旺盛である。いこーる体脂肪がぐーんと跳ね上がるので適正体重を維持することが年々辛くなってくる。

そこで一石二鳥のママさんダンブでの雪かき

は気持ちよい汗をかき腸の活性化も担っていて一仕事終えた後は体が軽くなったような気がする。

さてこの広報誌が皆さんの手元に届く頃は、1年で1番忙しい時期だと思います。忙しくなると顔の表情も悪くなります。でもお客さまにはいつも笑顔でいらっしゃいませそんな余裕をもってこの春を乗り切りましょう！ (R.Y)

オリンピック・こぼれ話(9)は、今回はお休みいたします。